

経営理念	<p>【教育目標】 のいちっ子 つながるこころ のびゆく子</p> <p>【経営目標】 『幼児一人一人を大切に、自ら学ぶ意欲と環境にかかわる力を培う幼稚園』をめざす。</p> <p>〈子ども像〉 ○じょうぶな からだ ○きれいな こころ ○かがやく ひとみ</p> <p>〈幼稚画像〉 ○意欲的に遊ぶ子どもの育つ幼稚園 ○自分で考え行動し、自らしようとする子どもを育てる幼稚園 ○友達と仲良く、思いやりのある子どもの心を大切に作る幼稚園</p> <p>○豊かな感性をもち、感じたことや考えたことを表現する子どものいる幼稚園</p> <p>〈教師像〉 ○子どもが自分でやってみようとする意欲を大切に自立していく力を育てる教師 ○一人一人の子ども心に寄り添いながら援助する教師 ○豊かな環境作りに努め、子どもらしく思いきり楽しく遊ぶ生活を保障する教師 ○豊かな人間性と指導力の向上に努める教師</p>
-------------	--

今年度の重点目標		評価項目	自己評価		学校関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
☆保育・教育活動の充実	① 幼児理解を基に子ども一人一人が遊び込めるようになるための保育をする	① 幼児一人一人が自己発揮できるための指導を行う 〔保育者の援助〕	遊びが点々としたり、困った時やどうしていいかわからない時に相手への伝え方が分からなかったりする子どもがおり、幼児理解の難しさや子どもと職員の思いのずれが生じているなどが出された。まずは、日々の記録の仕方を工夫し、幼児理解を深めるようにしていった。そうすることで、子どもの姿から援助の仕方を考えるようになったことは成果と言えるが、幼児理解には弱さがあり、今後も学びを重ね保育の質の向上を目指して研鑽を積んでいく必要がある。	B	「子どもが、言いたいことが言えるようになり、関わりの方法が増えた一年でした」の声があり自己発揮につながった。日々の記録を子どもが楽しんでいる姿を具体的に書く等工夫をし、子どもの姿から援助の仕方を自ら考えるようになったことは成果である。若い職員を含め尚一層幼児理解に努めようとする意気込みで次年度への期待を込めたい。	B	今後も子ども一人一人に耳を傾け子どもが話しやすい関係を大事にしていく。今年度の成果を次年度につなげ、日々の保育の振り返りや全職員との話し合い、園内研修や文献研修等を行い、幼児理解を努める。
		② 子どもの主体的な学びを保障するための園庭の環境構成を行う 〔環境構成〕	子どもの遊びの姿から“あんな物があればよかったのではないか”“もっと何かできる物はなかったのか”などと、職員は後から感じる事が多く、すぐに準備ができず遊びの広がりがあり見られないなど課題が残った。子どもの姿を予測し、子どもが主体的に物と関わり遊びが発展していくようになるためには、どんな物を準備し環境を設定するといったのか考えていく必要がある。	B	いつも安心して楽しく遊べるように環境を工夫している。課題として、物がすぐに準備できず遊びの広がりがあまり見られなかったとあった。遊びを知っていたら次に準備するものが自ずとわかってくるのではないかと、特に園庭の環境はどの園でもうまく活用できていないことが多いのではないかと意識して考えることを続けていってほしい。	B	園庭の環境を究め、主体的な学びを深めていくために、見通しをもち、子どもの姿を多面的に捉えていくようにする。また、主体的な学びを保障するために、アイデアを出しながら、日々の保育を語り合い、子どもがやりたいことが実現できるようにしていく。
		③ 幼児の発達や学びを踏まえた季節ごとの教材の研究をする 〔教材研究〕	学期に1回季節に応じた教材を研究することができた。一つの教材に焦点を当てそれぞれの職員が出し合い実践したり話し合ったりすることで、楽しみながら研究ができ、その後の保育に活かし、子どもとともに遊びを楽しむことができた。子どもとともに楽しみ、考えたり工夫したりする姿もつながったことは成果と言える。また、子どもの発想には驚かされたり子どもの自信につながったり、子どもの新たな良さの気付きにもつながった。	B	職員が楽しみながら研究ができ、子どもと共に楽しんだり新たな良さを発見することができたことは大きな成果である。一つの素材や一つの遊びについてこうやって探求を続けていくと、職員の皆さんの知識や経験が深く広がり子どもに遊びを提供する際に役立つと思われる。	B	教材研究をすることで、一つ一つの遊びや教材を深く知ることにつながった。今後も深く知ること面白さが感じられる援助となり、子どもの遊び自体が深く楽しいものになっていけるよう、学期に2回行うなど回数を少し増やし教材の研究をする。
◆職員向上の育成・運営	① ティーム保育(協力体制)を明確にし、職員が報告・連絡・相談に努め、協力して職務にあたる	① 日々の保育や子どもたちの様子等について、報告・連絡・相談に努め、情報を共有する 〔組織運営〕	行事では、実施案検討会の内容に加筆修正をした物を口頭補足をしながら手渡しができた。日々の終礼での話し合いの内容を終礼ノートに細かく記入し毎朝確認する等工夫を重ね、全職員と情報共有ができる方法を考え取り組んできた。研修会では、報告会・資料回覧を行い情報共有もしてきた。情報共有できるように、報告・連絡・相談に努めてきたことで、情報の共有化を図ることができた。	A	終礼ノートの存在が抜かすみんなに情報がいきわたるようしようという職員の気持ちを表しており、どうすれば効果的に行えるかを常に考え、より良い方法を模索して改善を図ることがうかがえる。情報の共有化が徹底できるようになったという成果につながっており、保護者も安心だと思える。	A	勤務時間が様々であり、全体での共有は難しい面もあるが、今年度の工夫や手立てを継続し、子どもも保護者も安心できる職員が協力しあい、情報の共有を図れるよう努める。
		② 子ども達が健康を意識しながら安心して生活できる保育を展開する	② 子ども達の健康に関する意識を高める指導の工夫 〔指導内容〕 〔健康管理〕	子どもの発達に応じた伝え方を工夫しながら保育を展開してきた。手洗いチェッカーを使い手洗いの実践をしたり、手洗いやうがいの仕方、マスクの付け方など見て分かる方法を考え定期的に伝えたりしてきたことで、手洗いやうがい、マスクの付け方や食事中会話をしないなどを意識して、自分で気を付ける子どもや子ども同士で「手、洗った?」「(マスクから)お鼻が出ちゃう?」等と声を掛け合う姿が増えてきていることは成果と言える。しかし、人数的には少なく、今後も子どもたちの健康に関する意識を高める指導の工夫を行えるよう職員同士が意識を高め、工夫改善は課題である。	B	園でしっかりと教えてくれていると感じており、子どもたちが十分意識し始めたことは大きな成果と言える。職員が、子どもに対して同じ方向で声がかかけられて子どもの健康に対する意識や態度の定着につながっている。	A
◎地域に開かれた園づくり	① 保護者との連携の工夫と感染予防と衛生管理に関する工夫	① 子どもや保護者の健康に関する意識を高める指導の工夫をする 〔健康管理〕 〔保護者との連携〕	園での感染予防や対策の大切さを子どもたちに定期的に伝え実践したり確認したりしながら工夫改善を行い、意識が高まってきた。保護者には、学級だよりやドキュメントを使い、園での取り組みや子どもの様子の写真を使いレイアウトを工夫しながら発信してきたが、わかりやすく伝える難しさが、伝え方には課題が残る。年長児は、全員マスク着用ができており、年少・年中児についてもおおむねマスクの着用ができています。	B	歌付き手洗いなど子どもが家でも実践している。また、取り組みや子どもの様子を手法・レイアウト等を工夫しわかりやすく伝えるように努めている。厳しい状況の中、コロナ対策は十分できていると思う。それぞれの感じ方があるため保護者への情報を伝えていくことが大事だと思う。	B	子どもや保護者と共に、健康に関する意識を高めていけるよう、コロナ対策を継続・改善しながら、取り組んでいく。また、園での取り組みや子どもの様子や変化等を保護者にわかりやすく伝えていけるよう、工夫をする。
		② 保護者が安心して子育てができるように支援する	② 保護者との信頼関係を構築する (保護者への支援)	学級懇談は、年長・年少は行うことができたが、年中は行うことができなかった。子どもの姿を学級だよりで詳しく伝えることを意識したり、個人懇談では、保護者と共に子ども一人一人の良さや頑張り、成長を感じ合うことができた。また、園での姿を登・降園時に一人一人に伝えるようにしているが、預かり保育をしている保護者の方とは、伝え合うことが少ない現状である。保護者の方々が相談をしやすい環境や対応の工夫をしなが、今後も保護者との信頼関係を築き安心して子育てができるように支援をしていく必要がある。	B	個人懇談が相談できる場となっていたり子ども一人一人の良さや頑張り・成長を保護者とともに感じ合うことができた。また、できなかった懇談会を学級だよりでカバーしたりと工夫されており園の努力が感じられた。預かり保育の保護者とのコミュニケーションの方法を工夫され今後も引き続き保護者への支援の取組を活発に実施されますようお願いいたします。	B